



# 環境活動レポート

## No.14 (2019年度版)

2020年11月30日発行

有限会社 大宮工機

<http://www.ohmiyakouki.com>

取組期間：2019年3月～2020年2月

## 経営理念

“人を想い 人が育ち 人に尽くす”  
～誇りと働きがいを持てる企業を目指す～

## 環境方針

当社の経営理念に基づき、持続可能な循環型社会の構築に貢献できる企業でありたいと願い、その実現のために努力します。

- ① お客様へ、できるだけ環境にかける負荷が少ない商品を提供するように努めます。
- ② 濁水処理設備の更なる普及など、環境保全事業の拡充を図ります。
- ③ 沖縄の美しい海を保全し、生物多様性の維持に貢献するため、「海の種」の協力により養殖サンゴの苗を移植放流する活動に取り組みます。
- ④ オフィス環境の省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、事務用品等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。
- ⑤ 使用する車両および機械等について、省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、車両および機械等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。
- ⑥ 化学物質の適切な管理と適切な使用量の設定等に努めます。
- ⑦ 持続可能な循環型社会の構築に向けて、社員、お客様、取引先、地域の皆様等へ環境情報の提供に努めます。
- ⑧ 環境に関する法律、規則及び条例等を遵守し、環境保全に努めます。
- ⑨ 全社員が一丸となって環境保全活動に取り組みます。

2006年12月1日制定  
2014年12月2日改訂  
2016年11月7日改訂  
2020年11月27日改訂  
有限会社 大宮工機  
代表取締役 宮城靖一

## 【1】 事業活動の概要

### 1) 事業所名及び代表者氏名

有限会社 大宮工機

代表取締役 宮城靖一

### 2) 所在地等

本社：沖縄県島尻郡八重瀬町字外間 99 番地 1

電話：098-851-9203 FAX：098-851-9204

山川機材センター：沖縄県島尻郡南風原町字山川 285 番地 1

ホームページアドレス：<http://www.ohmiyakouki.com>

旧本社：沖縄県島尻郡南風原町字宮平 631 番地

宮平 A ヤード：沖縄県島尻郡南風原町字宮平 492-8

宮平 B ヤード：沖縄県島尻郡南風原町字宮平 791-3

駐車場ヤード：沖縄県島尻郡南風原町字宮平当間原 651 番地 1

### 3) 事業の内容

- ・ 建設機械のレンタル・販売・修理
- ・ 赤土対策・濁水処理事業
- ・ レンタカー事業

### 4) 事業年度

3月1日から翌年の2月末日まで

### 5) 事業の規模

表 1. 事業の規模

活動規模	単位	2015 年度		2016 年度		2017 年度		2018 年度		2019 年度	
		2015.3～ 2016.2	2016.3～ 2017.2	2017.3～ 2018.2	2018.3～ 2019.2	2019.3～ 2020.2	2019.3～ 2020.2	2019.3～ 2020.2	2019.3～ 2020.2	2019.3～ 2020.2	2019.3～ 2020.2
売上高	百万円	368	384	386	398	384	384	35	35	37	37
社員数	人	28	31	35	35	37	37	35	35	37	37

※ 社員数は年度末時点での人数とする。

### 6) 対象範囲

全組織、全活動

## 【2】主要な環境活動計画の内容と取組結果

下記①～②より、目標値を設定した。

- ① 各項目とも売上高（百万円）当たりの量で目標値を設定する。
- ② 過去3年間の実績値より、それぞれの項目で最も低い値を基準値として定め、その値より1%ずつ下回ることを目標とする。

※購入電力による温室効果ガス排出量はエネルギー投入量で目標を設定している為、目標値は設定しない。

表1に過去3年分の実績値と 18年度～'20年度の目標値を示す。

表2. 過去3年間の実績値と目標値

項目		単位	'16年度	'17年度	'18年度	基準値	'19年度 目標値 (前年度 -1%)	'20年度 目標値 (前年度 -1%)	'21年度 目標値 (前年度 -1%)
	売上高		百万円	384	386		68	68	67
総エネルギー投入量	購入電力	kWh/百万円	69	80	77	69	68	68	67
	化石燃料	ℓ/百万円	231	208	166	166	164	163	161
総物質投入量	紙資源投入量	kg/百万円	0.70	0.77	0.72	0.70	0.69	0.69	0.68
水資源投入量	総排水量	m³/百万円	2.36	2.37	2.31	2.31	2.29	2.26	2.24
温室効果ガス排出量	購入電力	kg-CO₂/百万円	58.7	63.6	59.5	58.7	/	/	/
	化石燃料	kg-CO₂/百万円	576	518	408	408	404	400	396
廃棄物等総排出量	一般廃棄物 (再生利用)	kg/百万円	4.03	5.11	4.91	4.03	3.99	3.95	3.91
	一般廃棄物 (焼却発電)	kg/百万円	2.56	2.58	2.27	2.27	2.25	2.22	2.20
	産業廃棄物 (再生利用)	kg/百万円	99.5	76.0	64.3	64.3	63.7	63.0	62.4
	産業廃棄物 (単純焼却)	kg/百万円	41.7	47.9	29.6	29.6	29.3	29.0	28.7

表3に、目標値と結果及び評価について示す。

表3. 目標値と結果及び評価

項目	単位	目標値	'19年度 結果	結果 (±%)	評価
総エネルギー投入量	購入電力 kWh/百万円	68	83	21.1	×
	化石燃料 t/百万円	164	194	18.0	×
総物質投入量	紙資源投入量 kg/百万円	0.69	0.68	△0.84	○
水資源投入量	m <sup>3</sup> /百万円	2.29	3.04	32.9	×
温室効果ガス排出量	購入電力 kg-CO <sub>2</sub> /百万円		65.09		
	(排出係数)		0.787		
	化石燃料 kg-CO <sub>2</sub> /百万円	404	479	18.6	×
廃棄物等総排出量	一般廃棄物(再生利用) kg/百万円	3.99	4.26	6.8	×
	一般廃棄物(焼却発電) kg/百万円	2.25	2.54	13.0	×
	産業廃棄物(再生利用) kg/百万円	63.7	61.5	△ 3.4	○
	産業廃棄物(単純焼却) kg/百万円	29.3	43.1	47.2	×
総排水量	m <sup>3</sup> /百万円	2.29	3.04	32.9	×
二酸化炭素総排出量	kg-CO <sub>2</sub>		352.4		

2019年度のCO<sub>2</sub>排出係数は沖縄電力(株)0.787kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用する。

### 【3】主要な環境活動計画の内容と取組結果の評価

#### 環境方針①

方針	2019年度の環境活動計画	2019年度の取組結果と評価
お客様へ、できるだけ環境にかける負荷が少ない商品を提供するように努めます。	(1)発電機(出力 25~60kVA)は、極超低騒音型が占める割合 100%をめざす。 (2)従来型の発電機より環境負荷の少ないインバータ式発電機の導入を進める。	2019年度は、極超低騒音型発電機を4台更新した。インバーター発電機は増機できなかつたが、今後は古い発電機と入替をするなどして増機ていきたい。また、消費電力が小さい(50W)LEDライトは184台増やすことができた。 レンタルハウスの照明については、順次蛍光灯から LED タイプへ入れ替えている。

#### 環境方針②

方針	2019年度の環境活動計画	2019年度の取組結果と評価
濁水処理設備の更なる普及など、環境保全事業の拡充を図ります。	(1)2018年度の濁水処理装置保有台数は33台で稼働率56%、流出防止土砂量は379tであった。2019年度は稼動率60%、土砂量400tをめざす。 (2)より高度な処理(透明度をあげる)を行う装置を開発し、それを現状の装置に付加していく。 (3)情報発信と環境配慮型装置の普及に努める。	2019年度の濁水処理設備稼働率は49%、土砂量は463tであった。稼働率7%減少、土砂量は22%増加した。これは宜野湾浄化センター現場で濁水処理装置を使用せずに、沈殿池方式で処理を行ったためである。ここでは高分子凝集剤は使用せず、ポリ塩化アルミニウム(PAC)を通常の3倍の濃度で添加した。そのため、今期のPACの使用量は増加し、高分子凝集剤は減少した。 排泥補助装置を濁水処理装置800型に13台、500型に4台、小型濁水処理装置に17台、計34台設置した。 情報発信は、現在濁水処理装置を納品した際にその都度写真を撮り、自社のHPに掲載しているが、お客様への掲載許可の確認方法などを再検討する。

#### 環境方針③

方針	2019年度の環境活動計画	2019年度の取組結果と評価
沖縄の美しい海を保全し、生物多様性の維持に貢献するため、養殖サンゴの苗を移植放流する活動に取り組みます。	(1)2009年1月から「海の種」の協力により、養殖サンゴの苗を海へ移植放流する活動を行っている。濁水処理装置を1台納入する毎にサンゴの苗を1本移植放流し、設備を使用して頂いたお客様に、移植したサンゴの写真を添えて「海からの感謝状」を届ける。 2018年度は59本、これまでに477本を移植放流した。2019年度は60本を目標にする。	2019年度は60本の目標に対して、46本であった。濁水処理設備の稼働率が減少した為目標達成することが出来なかつた。今後は濁水処理装置以外の環境負荷低減型装置を納品した際にも、サンゴの苗を移植放流することを検討する。

**環境方針④**

方針	2019年度の環境活動計画	2019年度の取組結果と評価
オフィス環境の省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、事務用品等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。	<p>(1)電力</p> <p>①事務所の使用しない電気器具のスイッチをこまめに切る。</p> <p>②電気器具のスイッチの近くに「節電」等を掲示し、社員の意識向上を図る。</p> <p>③事務所および休憩室の冷房の室温を 28°C以上、暖房を 23°C以下に設定する。夏場は休憩室を使用する前に換気をして、熱を逃がしておく。また、休憩室の冷房器具を交換時に省エネルギー型に入れ替える。</p> <p>④事務所のエアコン、プリンタ等を交換時に省エネルギー型に入れ替える。</p> <p>⑤パソコンを使用していないときは電源を落とすなど、使用電力の削減に努める。</p> <p>⑥太陽光発電等自然エネルギーを利用した設備の導入を検討する。</p> <p>⑦必要に応じて、自動点灯式照明器具を導入する。</p> <p>⑧エアコンの清掃をこまめにする。</p>	<p>事務所 100V は昨年度より 558kwh(3.3%)減少した。これは社員の節電意識が向上した為と考えられる。</p> <p>事務所 200V は 801kwh(20.8%)増加した。これは、高圧洗浄機の使用が増えた為と考えられる。2018 年まで業者に依頼していたテントカバーの洗浄を自社で行うようになったことと、計画を立てて洗車を行うようになったことが考えられる。今後も使用していない電気器具のスイッチをこまめに切るなど、さらに工夫を重ねて取り組みたい。</p>
担当 岸本	(2)水資源	<p>212 m<sup>3</sup>(23.0%)増加した。</p> <p>これまでよりも頻繁に配送車両の洗車を行うようになった為である。水道直結のホースで洗車することも多かったので、今後は雨水など溜まった水から使用することを周知して水資源削減に努めたい。</p>
担当 上原弘之	(3)紙資源	<p>昨年度より 23.8 kg(8.3%)減少する結果となった。これは貸機納品書、貸機返納書の使用量が減った為と考えられる。</p> <p>コピー用紙は 10.4 kg(7.9%)増加している。これは、イベント等の際にお客様へ環境レポートの配布を行ったことと、2か月に1度休日カレンダーを請求書に添付していること等で増加したと考えられる。</p> <p>封筒・領収証は 1 度の購入で 2~3 年分を賄うため、2019 年度は購入が無かった。</p>
担当 金城	<p>①ファックスの受信・送信、保存文書などの電子化により、コピー用紙の使用を抑制する。</p> <p>②コピー用紙、名刺、トイレットペーパーなどは再生紙を使用する。</p> <p>③社内会議ではプロジェクターを使用する等して、コピー用紙の使用を抑制する。</p> <p>④コピー用紙の裏紙をメモ用紙として再利用する。</p> <p>⑤社内で使用する資料等は、できるだけ両面印刷をし、連絡事項などは社内コミュニケーションアプリを使用する。</p>	

担当 志良堂	<p>(4)廃棄物排出量の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①一般廃棄物の分別を徹底する。(燃やすゴミ、アルミ缶、スチール缶、ペットボトル、ビン等)その内、有価物(新聞、OA用紙、段ボール、雑誌)は、障害者福祉サービス事業所ワークプラザ南風へ提供する。</li> <li>②乾電池は、できるだけ充電式乾電池を使用する。</li> <li>③マイボトル・マイ箸などを使用して、ゴミを出さないようにする。</li> <li>④コピー用紙の裏紙をメモ用紙として再利用する。(再利用した紙も再生紙とする。)</li> <li>⑤事務所で使用する消耗品は、詰め替え可能なものとするように努める。</li> <li>⑥確実に計測をするために、担当者を決める。</li> </ul>	<p>焼却発電は、昨年度より 214kg(28.1%)増加した。分別の徹底は継続して行っているが、焼却発電が増加したのは、昨年は計量表に記入漏れがあったが、今年は計量と記入が定着し、記入漏れが減少したためと考えられる。</p> <p>OA用紙が 124.6 kg(91.9%)増加したのは、10年以上前の書類を大量に処分したためと考えられる。</p> <p>段ボールが減少しているのは、昨年より消耗品の仕入れ金額が 26%減少したためと考えられる。</p> <p>今後も種類ごとにゴミ箱を設置して分別を徹底し、計測後二体制での確認を行い、確実な計測を行いたい。</p>
担当 志良堂	<p>(5)グリーン購入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①事務所内の備品は、グリーン購入チェックリストを作成し、環境に配慮したものとするように努める。</li> <li>②チェックリストを定期的に見直す(3月・9月)</li> </ul>	<p>社内で使用する紙は再生紙、事務用品は詰め替え用を利用するなど、品質や価格だけでなく環境への影響ができるだけ小さい製品を選び、グリーン購入に取り組んでいる。</p>

#### 環境方針⑤

方針	2019年度の環境活動計画	2019年度の取組結果の評価
使用する車両および機械等について、省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。	<p>(1)電力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①高圧洗浄機の適切な使用を心掛ける。</li> <li>②作業場の使用していない電気器具のスイッチをこまめに切る。</li> <li>③必要に応じて、自動点灯式の照明器具を導入する。</li> <li>④使用しない電気器具は撤去する。</li> <li>⑤作業場の使用しない電気器具は、コンセントを抜くようにする。</li> </ul>	<p>昨年度より宮平 A ヤードは 143kwh(3.4%)減少した。社員の節電意識が向上した為わずかではあるが減少した。</p> <p>山川ヤードは 913kwh(12.4%)増加した。これは、ハウスを整備する際にエアコンの動作確認も兼ねて、エアコンを使用したまま内部の整備を行ったことが原因と考えられる。</p>
	<p>(2)燃料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①車両および建設機械には、適切な燃料を使用する。</li> <li>②車両および建設機械の不要なアイドリング、空ぶかしの禁止。</li> <li>③安全運転を徹底し、適切な車間距離を保ち、急発進、急加速、急停止などを極力避ける。</li> <li>④配送車両の過積載をしない。</li> <li>⑤車両の日次点検(オイル・クーラント・タイヤの空気圧)を行う。</li> <li>⑥パソコン等で地図を確認して、適切な配送ルートをとる。</li> <li>⑦燃費効率が悪い車両の入れ替えを行う。</li> </ul>	<p>自社のガソリン使用量は 162ℓ(1.0%)、走行距離は 3759 km(1.9%)増加している。これは、遠くに大型の現場が増えたことが原因と考えられる。</p> <p>また、平均燃費が 0.11km/ℓ向上したことは、高速道路の使用が増えたためと考えられる。</p> <p>今年度はエコドライブ講習会に参加することは出来なかった。</p>

また、車両および機械等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。	⑧エコドライブ講習会を年1回以上実施する。	
担当 上原 弘之	<p>(3)水資源</p> <p>①できるだけ雨水タンクに貯水した水を使用する。</p> <p>②機械等の洗浄水は、濁水処理設備で処理し再利用する。</p> <p>③仮設トイレなどの洗浄に高圧洗浄機を使用することによって、水の使用を少なくする。</p> <p>④雨水タンクに流水計の設置を検討する。</p>	<p>昨年度と比べて宮平Aヤードは59m<sup>3</sup>(32.2%)、山川ヤードは13m<sup>3</sup>(5.7%)増加した。これは、これまでよりも頻繁に配送車両の洗車を行うようになった為と考えられる。</p> <p>今後は、雨水を使用することを周知して水資源の使用削減に努めたい。</p>
担当 島袋	<p>(4)廃棄物排出量の削減</p> <p>①廃棄物の分別を徹底し、できるだけ有価物(鉄くず、廃油、バッテリ等)を増やすようにする。</p> <p>②バックホー等に付着する泥を、できるだけ現場で落とすなどして、自社に持ち込まない。</p> <p>③廃棄物の分別を細かくするために、品目別にフレコンパックを使用して仕分ける。</p>	<p>単純焼却と残土は増加し、廃油と金属は減少する結果となった。</p> <p>単純焼却と残土が増加したのは、ヤード移転に伴い整理整頓を行ったため、大量の廃棄物が出たと考えられる。</p> <p>廃油が減少したのは、発電機・コンプレッサー・バックホー等を長期間使用する現場が減少した為、オイル交換のサイクルが長くなったためと考えられる。</p> <p>金属が減少したのは、大きな機械の廃棄がなかったためと考えられる。</p>
担当 新里	<p>(5)グリーン購入</p> <p>①車両および機械等を購入する際は、環境への負荷が少ないものを選ぶ。また、グリーン購入製品リストを作成し、環境負荷低減型商品の導入を進めていく。</p> <p>②商品別製品リストを作成する。</p>	<p>2019年度は、極超低騒音型発電機を4台更新した。今後も環境に配慮した製品を選定し、グリーン購入を進めていきたい。</p>

#### 環境方針⑥

方針		2019 年度の環境活動計画	2019 年度の取組結果と評価
化学物質の適切な管理と適切な使用量の設定等に努めます。	担当 上江洲	(1)関係法令や規則を遵守するため、管理方法や取扱い基準をまとめ社員へ周知する。	薬品保管庫内に「薬剤数量管理表」及び「薬剤の取扱い基準」を掲示し、薬剤の数量管理や取扱いを適切に行っている。
		(2)当社で取り扱う化学薬品の特徴や取扱いについて、社内学習会を行う。(年 1 回)	今期は、自社で取り扱っている化学薬品について学習会を行うことは出来なかった。

#### 環境方針⑦

方 針		2019 年度の環境活動計画	2019 年度の取組結果と評価
持続可能な循環型社会の構築に向けて、社員、お客様、取引先、地域の皆様等へ環境情報の提供に努めます。	担当 上江洲	(1)環境問題について社内学習会を行う。(年1回)	7月 30 日に「地球温暖化」が環境へ及ぼす影響や私達が取り組むべきことについて学習会を行った。 11月 26 日に「災害対応手順」について学習会を行った。
		(2)お客様、取引先等へ環境活動レポートを配布する。また、ホームページやラジオ番組、CM等を活用して、環境情報を提供する。	FM 沖縄の「人間大好きリレージョッキー」に出演(隔週水曜日 10 時 30 分～10 時 40 分)して環境情報等の発信を行っている。
		(3)環境フェア等へ出展する。	10月 25 日～27 日に「同友会・輝く見本市」に、ICタグを活用した「レンタル管理システム」や「濁水処理装置」について出展した。

#### 環境方針⑧

方 針		2019 年度の環境活動計画	2019 年度の取組結果と評価
環境に関する法律、規則及び条例等を遵守し、環境保全に努めます。	担当 上江洲	(1)環境関連法規のとりまとめを行ない、遵守状況を毎年 3 月と 9 月に確認する。	3 月 28 日と 9 月 27 日に確認を行った。環境関連法規は全て遵守されている。
		(2)環境関連法規についての社内学習会を行う。 (年 1 回)	今期は、環境関連法規について学習会を行うことは出来なかった。

#### 環境方針⑨

方 針		2019 年度の環境活動計画	2019 年度の取組結果と評価
全社員が一丸となって環境保全活動に取り組みます。	担当 上江洲	(1)環境保全活動について、責任と権限を明確にした実施体制を構築する。また、定期的に社員教育を行ない、社員のレベルアップを図る。 ①6ヶ月に一度、全社ミーティングでエコアクション21の取り組み状況を確認し、改善点等について検討する。(年 2 回) ②環境委員会を定期的に開き(毎月 1 回)、環境委員のレベルアップを図る。 ③エコドライブ講習会など外部講習会に参加する。	今期は新メンバーも加入し、責任と権限を明確にした実施体制を構築して環境保全活動をすすめてきた。 ①6月 11 日に自社の環境への取り組みの活動報告と説明を行った。 ③ 2019 年度は環境委員会を 15 回開いた。 ③今期は予定が合わず、エコドライブ講習会に参加することは出来なかった。

## 【4】13年間の環境活動の取組結果

図1. 過去13年間の総エネルギー投入量及び温室効果ガス排出量(売上高百万円当たり)

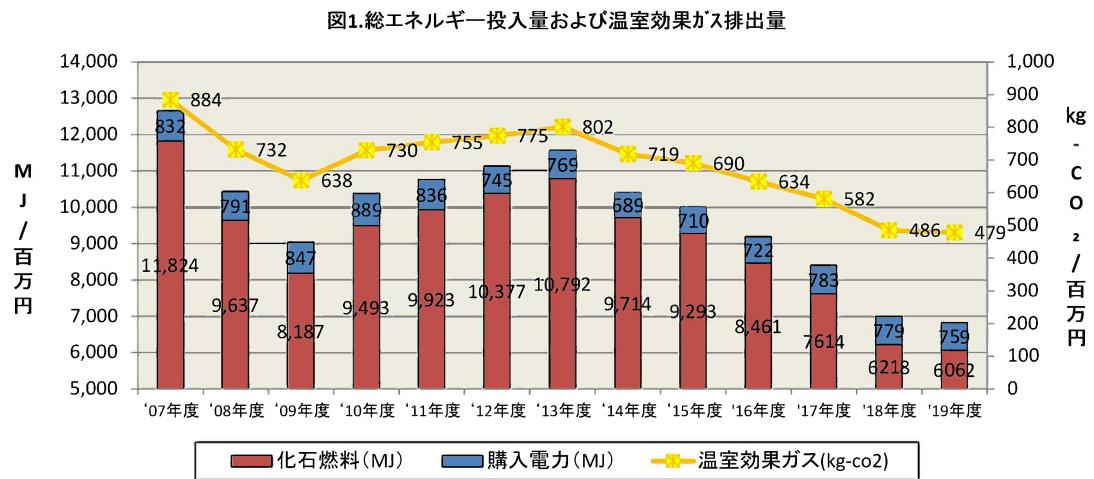


図1より、温室効果ガス排出量は、年度によりバラつきはあるが、2013年度以降は年々減少している。また、2019年度は化石燃料の使用量をさらに減らすことによって、これまでの最低値を出すことができた。

図2.過去13年間の一般廃棄物排出量(売上高百万円当たり)

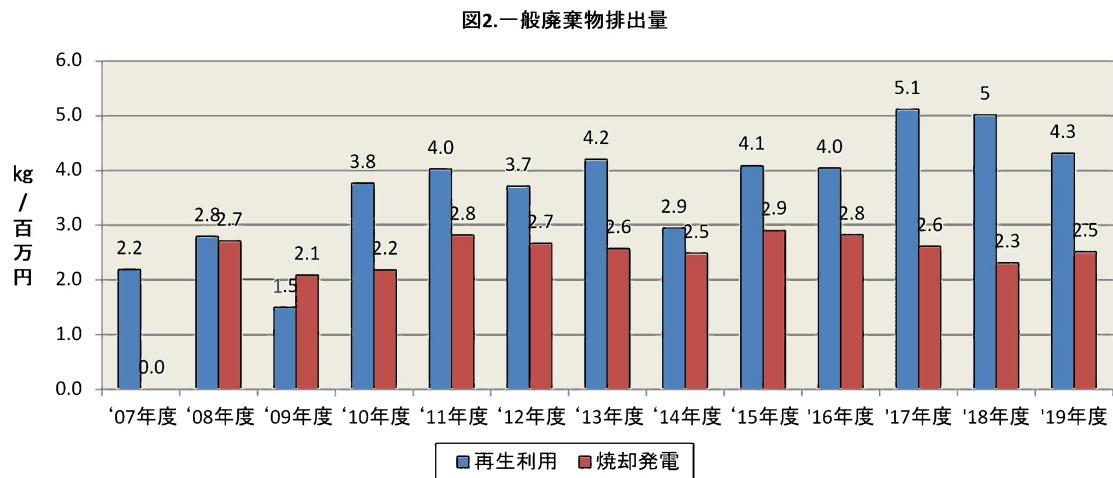


図2より、2018年度より0.7kg/百万円減少している。これは消耗品の仕入れ量が減少したことにより、段ボールの量が減った為と考えられる。焼却発電は、排出量がほぼ安定してきている。これは分別の徹底が進んだためと考えられるが、より向上させるためには、もう一步進んだ取り組みが必要と思われる。

図3.過去13年間の産業廃棄物排出量（売上高百万円当たり）

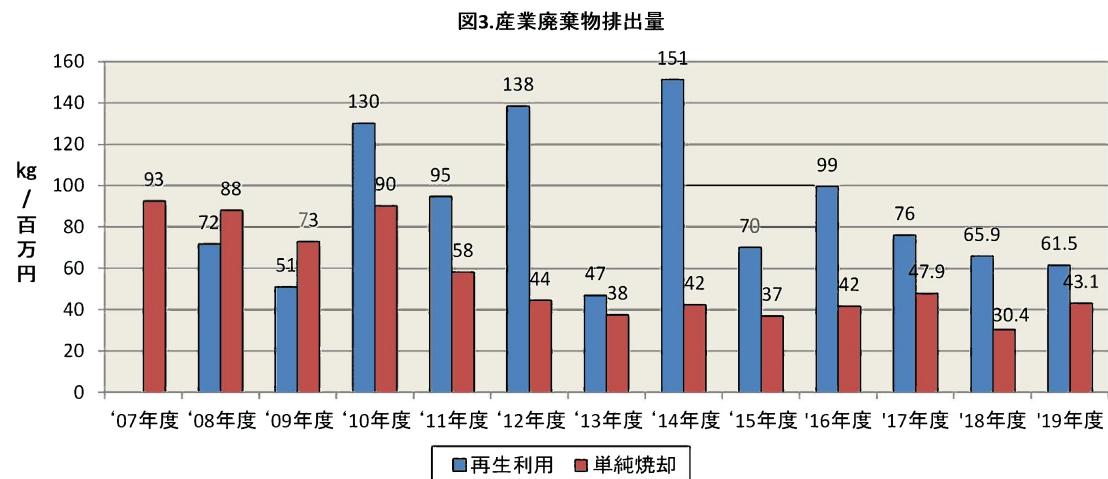


図3より、単純焼却は低い値で安定してきているが、再生利用は年度によりバラつきが見られる。

単純焼却が低値で安定していることから、分別の徹底が進み、リサイクル率が向上してきていると考えられる。

図4.過去13年間の紙資源・水資源投入量（売上高百万円当たり）

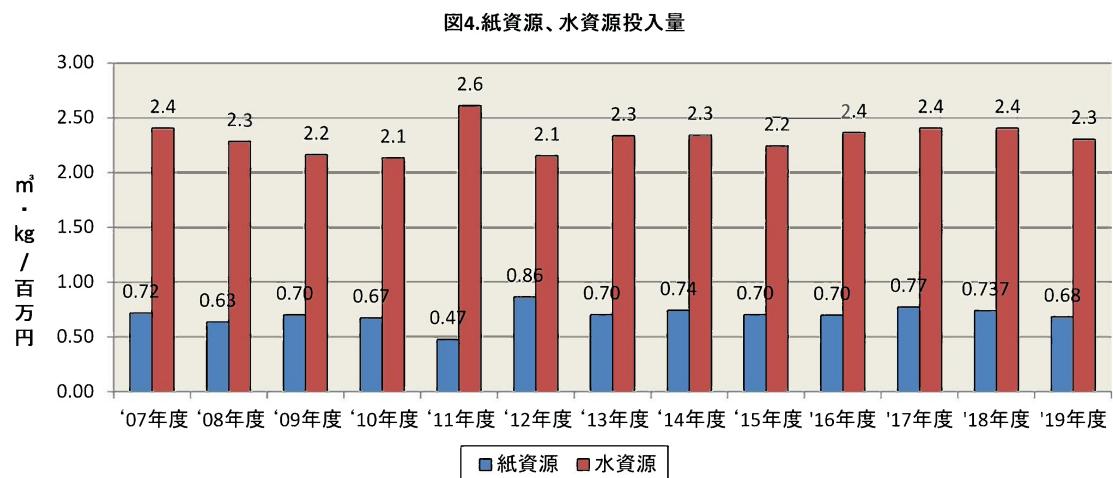


図4より、紙資源・水資源とも、あまり大きな変動はみられない。

表5に養殖サンゴの苗の移植放流数を示す。

表5.養殖サンゴの苗の移植放流数

申し込み年月	本 数	移植年月
2009 年度合計	17 本	
2010 年度合計	57 本	
2011 年度合計	62 本	社員分 27 本含む
2012 年度合計	28 本	
2013 年度合計	38 本	
2014 年度合計	84 本	30 周年記念含む
2015 年度合計	47 本	
2016 年度合計	50 本	
2017 年度	2017 年 5 月 11 本	
	2017 年 8 月 10 本	
	2017 年 11 月 10 本	
	2018 年 1 月 4 本	
2017 年度合計		35 本
2018 年度	2018 年 3 月 9 本	
	2018 年 7 月 7 本	
	2018 年 10 月 17 本	
	2018 年 12 月 16 本	
	2019 年 2 月 10 本	
2018 年度合計		59 本
2019 年度	2019 年 6 月 16 本	
	2019 年 9 月 19 本	
	2019 年 11 月 11 本	
2019 年度合計		46 本
合 計		523 本



2009 年度から「海の種」様の協力を得て、養殖サンゴの苗の移植放流活動を行っている。

移植放流後、サンゴ移植完了報告書『海からの感謝状』をお客様に届けている。

11 年間で 523 本の移植放流を行った。

## 【5】次年度の主な活動計画

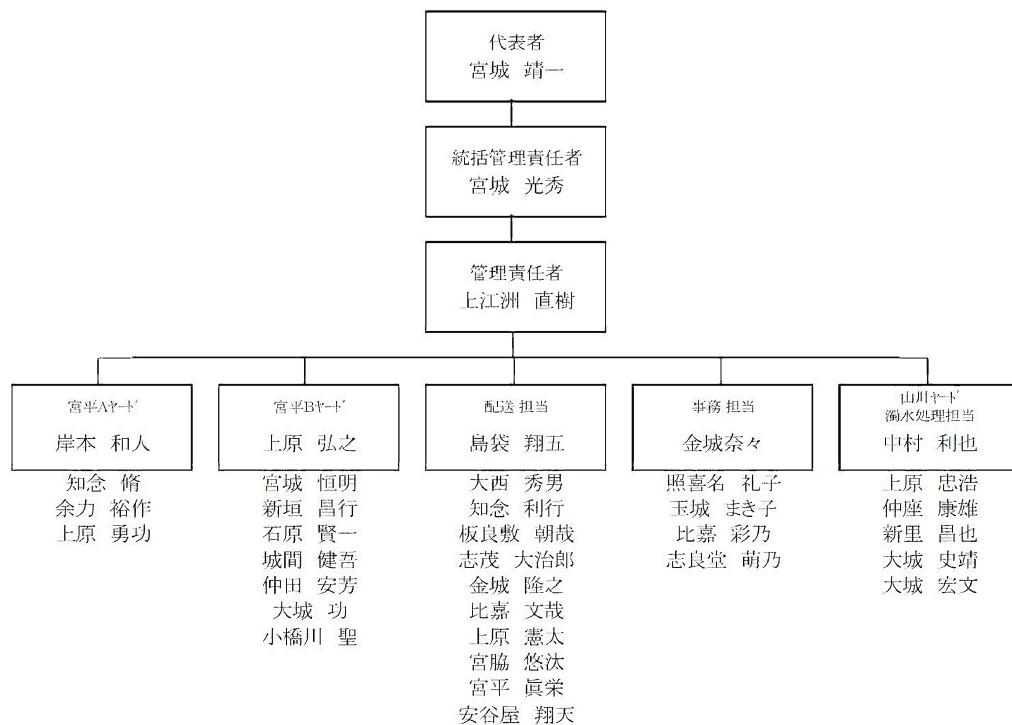
<b>環境方針①</b> お客様へ、できるだけ環境にかける負荷が少ない商品を提供するように努めます。
・極超低騒音型・インバーター式発電機と LED 照明器具の導入を更にすすめます。
<b>環境方針②</b> 濁水処理装置の更なる普及など、環境保全事業の拡充を図ります。
・お客様のニーズに対応した濁水処理装置や計測装置の開発をすすめます。
<b>環境方針③</b> 沖縄の美しい海を保全し、生物多様性の維持に貢献するため、「海の種」の協力により養殖サンゴの苗を移植放流する活動に取り組みます。
・引き続き、濁水処理装置を 1 台納入するごとに、養殖サンゴの苗 1 本を移植放流する活動に取り組みます。
<b>環境方針④</b> オフィス環境の省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、事務用品等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。
(1) 電力…電気器具のスイッチをこまめに切り工夫を重ねて節電に取り組みます。 エアコンのメンテナンスを行います。
(2) 水資源…節水コマの使用や蛇口レバーに工夫をするなどして、無駄を省きます。
(3) 紙資源…文書管理システム等の活用により、更なるペーパレス化で削減を図ります。
(4) 一般廃棄物…分別を徹底し、計測の精度を上げる取組をします。
(5) グリーン購入…環境に配慮した商品の購入に努めます。
<b>環境方針⑤</b> 使用する車両および機械等について、省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、車両および機械等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。
(1) 電力…高圧洗浄機等の適切な使用や作業場照明の LED 化等を行い、節電に取り組みます。
(2) 燃料…安全運転を徹底し、急発進、急加速、急停止などを極力避けます。 エコドライブ講習会に、未受講の社員を優先的に参加させます。
(3) 水資源…レンタル品や車両の洗浄に雨水や処理水を利用し、水資源の使用削減に努めます。
(4) 廃棄物排出量の削減…分別を徹底し、資源の再利用に努めます。
<b>環境方針⑥</b> 化学物質の適切な管理と適切な使用量の設定等に努めます。
・化学物質の適正な管理を徹底します。
・化学物質の特徴や取扱いについて社内学習会を行います。(年 1 回以上)
<b>環境方針⑦</b> 持続可能な循環型社会の構築に向けて、社員、お客様、取引先、地域の皆様等へ環境情報の提供に努めます。
・環境問題について社内学習会を行います。(年 1 回)
・お客様、取引先等へ環境活動レポートを配布します。また、ホームページやラジオ番組、CM 等を活用して環境情報を提供します。
・中小企業家同友会の「見本市」に出展します。
<b>環境方針⑧</b> 環境に関する法律、規則及び条例等を遵守し、環境保全に努めます。
・環境関連法規のとりまとめを行ない、遵守状況を 3 月と 9 月に確認します。
・環境関連法規について社内学習会を行います。(年 1 回)
<b>環境方針⑨</b> 全社員が一丸となって環境保全活動に取り組みます。
・全社員でエコアクション 21 の取組状況を確認し、改善点等について検討します。(年 1 回)
・環境委員会を定期的に開き、環境委員のレベルアップを図ります。(月 1 回)
・エコドライブ講習会などの外部講習会に参加します。

## 【6】環境関連法規等への違反、提訴等の有無

環境関連法規への違反、提訴等は 1987 年 5 月設立以来、1 件もありません。

## 【7】実施体制図

(有)大宮工機 エコアクション21 実施体制図



宮平Aヤード・大型機材(担当:岸本 和人)

- ①節電・節水に取り組む
- ②洗い場・廃油等の管理を行う。

宮平Bヤード・レンタル機材(担当:上原 弘之)

- ①節電・節水に取り組む
- ②洗い場・産廃コンテナ・廃油等の管理を行う。

配送 (担当:島袋 翔五)

- ①配送車両の燃費計測を行う。
- ②エコドライブの普及、浸透に取り組む

事務 (担当:金城 奈々)

- ①電気・水道・紙資源等の節約に取り組む。
- ②各種データ整理を行う。

山川ヤード・濁水処理事業 (担当:中村 利也)

- ①節電・節水に取り組む
- ②残土等の管理を行う。
- ③濁水処理事業の拡充に取り組む。

※ 各担当者は、それぞれの取り組み事項を実施、管理する責任と権限を有します。

統括管理責任者・管理責任者は、それぞれの取り組みを管理する責任と権限があります。

## 【8】代表者による全体評価と見直し

世界各地で異常気象が見られるなど、地球温暖化の脅威がますます現実味を帯びてきた中、日本政府も2050年までに温室効果ガス排出を全体としてゼロにすることを表明しました。当社も企業として、地球市民として、温暖化をはじめとする環境問題ときちんと向き合い、継続した取り組みを進めていきたいものです。

当社のエコアクション21の取り組みは14年目となり、内容は年々充実してきていると思われます。しかし、環境レポートの作成に約6か月かかることが昨年までの課題でした。今年はその課題を解決したいと考えていましたが、コロナウィルス感染症の影響で前半期はほとんど活動ができず、また、5月末に本社の移転もあったことから、完成まで約9か月もかかってしまいました。大変困難な状況下で遅ればしましたが、環境活動レポートを発行できたことは、環境委員はじめ社員の努力によるものであり、この点は評価に値すると考えます。

環境方針①～⑨の評価と見直しについて、それぞれ下記に述べます。

環境方針①では発電機とライトについて考察がなされ、低騒音型やLEDなど、より環境負荷が少ない製品の導入が進んでいます。しかし、それら以外にも環境負荷が少ない製品はあるはずなので、さらに考察の幅を広げて欲しいと思います。

環境方針②では、今年は沈殿池方式を用いた現場があったことから、濁水処理装置の稼働率は低下しましたが、処理量は22%増加しました。今後も現場状況に応じた適切な処理を行なって欲しいと思います。

環境方針③では、今年は46本、これまでの11年間で523本のサンゴを移植放流しました。今後は、社内外にこの活動の意義や成果を周知する取り組みを進めて欲しいと思います。

環境方針④、⑤は、紙資源投入量と産業廃棄物（再生利用）以外では使用量や廃棄量が増加し、目標を達成できていません。エコアクション21の取り組みが14年目となり、考えられることはほとんどやり尽くした感もあり、従来通りのやり方では目標達成は難しくなってきていると考えられます。今後は、新たな視点も加えて取り組んでもらいたいと思います。

環境方針⑥～⑨については、社内学習会や外部講習会への参加が計画通りにできていないものが散見されます。計画の立て方とチェック体制の見直しが必要と思われます。